



JRでお越しの方は

京都駅	12分	高槻駅	5分	茨木駅	徒歩 約5分
大阪駅			14分		
三ノ宮駅			41分		

阪急電鉄でお越しの方は

京都河原町駅	25分	茨木市駅	2分	南茨木駅	徒歩 約10分
大阪梅田駅			18分		
西宮北口駅	9分	十三駅	14分		

大阪モノレールでお越しの方は

門真市駅	13分	南茨木駅	徒歩 約10分
大阪空港駅	21分	宇野辺駅	徒歩 約10分

※所要時間には乗り換え時間を含みません。

大阪いばらきキャンパス

立命館大学 政策科学部

Tel (072) 665-2080 Fax (072) 665-2089
立命館大学 大阪いばらきキャンパス
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

\ 政策科学部をもっと知ろう /

政策科学部ホームページ www.ritsumei.ac.jp/ps/

政策科学部

College of Policy Science | Ritsumeikan University



この問題、あなたならどうする？

クマは、人の天敵ですか？



ChatGPTが実用化されても、
外国語を習得する必要があるのだろうか。



約束の時間にいつも
遅れてくる友人。
どう対応すればいいですか？



母校が老朽
あなたの税金



店さえあれば、
街は
のだろうか。

解決の
ヒントは
こちら



政策科学部とは？

私たちの世界には、日々さまざまな問題が起こっています。

これらの問題は、国や地域を超え、時代を超え、お互いに関連しあい、影響しあっています。

戦争、災害、環境、飢餓、高齢化、雇用、犯罪—どの問題も放置することはできません。

問題の背後には苦しんだり、悲しんだり、悩んだりしている多くの人々がいるからです。

こうした問題に対し、広い視野をもって理解し、その解決を展望し、

時代を構想できる人材を育成することを目指し、政策科学部は設立されました。

現代社会が抱える複雑な問題は、1つの学問領域で完結するものではなく、

人文科学・社会科学・自然科学など、さまざまな学問の観点から捉える必要があります。

政策科学部では「**公共政策**」「**環境開発**」「**社会マネジメント**」の

3つの学系を柱とした学びを展開しています。

それぞれの学系を系統的・横断的に履修することで、

既存の学問の壁を超えた視点から、

問題発見、現状分析、政策提言を行い、

よりよい社会の創造を目指します。



01 小集団で学ぶ

学びの特色

仲間とともに学びながら、発見→調査→探求→発信のサイクルを実践

政策科学部では、1～4回生のすべての学年で「政策科学演習科目」という小集団授業を受講します。政策科学演習科目では、ディスカッションやグループワーク、現地調査などを通じて、批判的思考や論理的な表現、実践力を身につけ、学びの集大成として「学士論文」を執筆します。

政策科学演習科目 4年間の流れ



政策科学の学びの出発点です。リサーチとプレゼンテーションを繰り返し行うことで、論理的思考力・批判的思考・多角的思考・表現力・文章力などを身につけます。

共通のテーマに関心のある学生と研究グループ(プロジェクト)を編成します。プロジェクトごとに現地調査を行い、社会問題や政策課題への理解を深めます。

ゼミナール(ゼミ)に所属し、政策構想力を深めていきます。これまで学んできた研究手法と、様々な学問分野での学びから、研究テーマを決めていきます。

政策科学部での学びの集大成となるのが「学士論文」です。論文の執筆過程で得た、調査力、行動力、発信力は卒業後の進路においても役に立つでしょう。

ゼミ紹介

小田ゼミ「発展途上国が抱える様々な問題を考える」

ゼミでは、途上国が抱える貧困、教育、保健衛生、児童労働など様々な課題を理論・実証の両面から分析し、理解を深めることを目的としています。経済学に加え、文化・宗教・社会・地理など多角的視点で問題の本質に迫ります。途上国を支援する機関の訪問や実証分析手法のワークショップも行います。学内の研究大会「アカデミックフェスタ」での研究成果の発表を目指して、ゼミ生は真剣かつ楽しく研究に取り組んでいます。

小田 尚也 政策科学部 教授



途上国発展のためのヒントを探り、世界中の人々の生活水準向上に貢献したい

途上国開発に興味があり、南アジア地域における開発問題の研究や政策提言を行っている小田先生のゼミに。グループ研究で、低所得国の一、バングラデシュの中でも開発が遅れている州の電化に関する研究に取り組み、その成果をPSアカデミック・フェスタで発表しました。バングラデシュの政府関係者への聞き取り調査などを通して、明らかにされていないことに対する仮説を立て、データによって仮説を検証するという



研究の流れを身につけることができました。これは、今後どのような道に進んでも活かされる力だと思います。真摯に取り組んだ研究で表彰を受けることができたことも良い経験でした。今後は、途上国の発展のためのさらなるヒントを探るために、研究対象のフィールドをバングラデシュ全土に広げつつ、研究を精緻化させたいと考えています。卒業後は、総合建設機械メーカーへ就職し、途上国も含めた世界中のインフラ開発・保守に貢献したいと考えています。

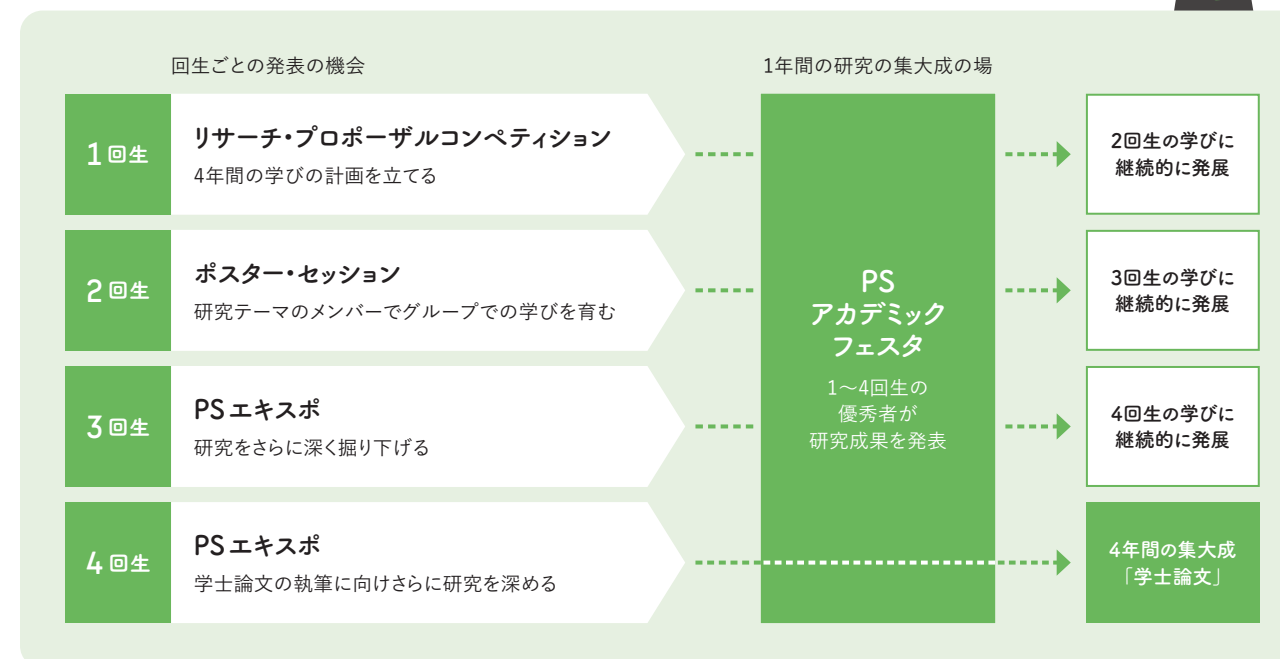


土田 陽大 さん

政策科学部 政策科学科4回生
福井県・福井県立金津高校出身

PSアカデミック・フェスタ

政策科学部では研究を行うだけでなく、報告書や論文にまとめるとともに、研究の成果を発表することも重視しています。研究と発表を繰り返すことにより、問題を発見し、解決する「政策実践力」だけでなく、コミュニケーション力やプレゼンテーション能力といった実社会で求められる力も鍛えます。豊富な発表機会のなかでも、12月に行われる「PSアカデミック・フェスタ」は、各回生の優れた研究成果の発表やコンペティションを行う、政策科学部の1年の学びの集大成となるイベントです。



2024年度 PSアカデミック・フェスタ受賞テーマ(一部抜粋)

3・4回生 最優秀賞
行動経済学のナッジ理論を活用した歩行者空間における左側通行習慣化の促進

2回生 最優秀プロジェクト
ななめの関係で育む地域コミュニティ
～プレーパークが子どもに与える影響とは?～

政策科学専攻1回生 最優秀賞
母子世帯の貧困による子どもの社会的孤立対策としての社会的包摂

CRPS専攻1回生最優秀賞
Comparing the Outcomes of Informal Settlement Redevelopment Projects in Bangkok, Thailand
(タイ・バンコクにおける非公式居住地再開発プロジェクトの成果比較)

茨木市長賞
University Students' E-waste Disposal and Recycling Behavior: A Cross-Cultural Study Using an Integrated Psychological Model
(大学生の電子廃棄物の処分およびリサイクル行動:統合心理モデルを用いた異文化間研究)

02 実践的に学ぶ

学びの特色

国内・海外の政策現場で「実際」を読み解く

政策科学部では、「PBL(Project/Problem-Based Learning:問題解決型学習)」に重きをおいています。

PBL型の学びとして最も特徴的なのが、2回生で受講する「研究実践フォーラム」です。

この科目では、共通のテーマに関心をもつ学生同士で研究グループ(プロジェクト)を編成します。

プロジェクトは、学生が自主的にテーマを設定した「自主プロジェクト」と、教員がテーマを提案する「特定プロジェクト」に分かれます。

いずれのプロジェクトも実際に政策課題に取り組んでいる現場へ赴き、フィールドワークを行います。

研究実践フォーラム プロジェクト例

特定プロジェクト[海外] タイ プロジェクト

経済格差や高齢化社会がもたらす、住宅と都市計画の課題について学ぶ

貧困家庭へのインタビュー調査



特定プロジェクト[海外] フィリピン プロジェクト

都市スラムや太平洋戦争の戦跡への訪問を通じ、「貧困」を経済的、社会的、政治的、歴史的といった多様な側面から学ぶ

貧困地区にある小学校への訪問



特定プロジェクト[海外] カナダ プロジェクト

移民国家・多文化主義であるカナダの現状と課題を把握する
国際機関・外交の場で働くことについて考える



在カナダ大使館でのヒアリング調査

特定プロジェクト[海外] 日韓相互理解プロジェクト

現地スタディツアーや現地大学生との交流を通じて、日韓の相互理解を深め、関係改善を促進するための政策研究を行う



特定プロジェクト[国内] 南信州プロジェクト

農山村・地方都市における持続可能な地域づくりとそのための政策のあり方を考える



特定プロジェクト[国内] 京都市右京区プロジェクト

「オーバーツーリズム」をテーマに、地域活性化と住民生活ニーズへの対応を総合的に考える



特定プロジェクト[国内] Ashiu プロジェクト

京都府南丹市にある芦生の森を事例に、森林保全とその管理活動について学び、植物や動物との共生、環境影響、環境教育について理解を深める



芦生の森

自主プロジェクト

ななめの関係で育む地域コミュニティ
～プレーパークが子どもに与える影響とは?～

公園とプレーパークを比較し、プレーパークが地域コミュニティの形成や子どもの非認知能力の向上にどのような影響を与えるかを明らかにする



※実施プロジェクトは年度によって異なります

プロジェクト紹介:特定プロジェクト[国内]淡路島地域振興プロジェクト

フィールドとなる淡路島では、

2040年には人口がピーク時の6割以下まで減少すると予測されており、

人口減少が深刻な問題となっています。

一方で第一次産業や観光業が強みを持っており、

農業・畜産業・水産業を活用した地域活性化が期待されています。

参加者は現地での体験や関係者へのインタビューを通じて、

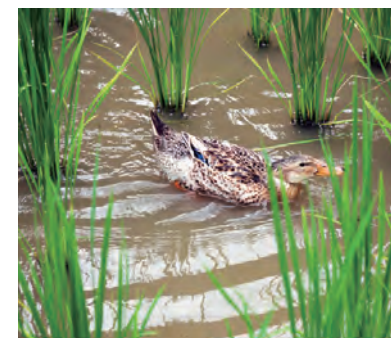
現状を分析し、地域の課題解決に向けた政策提言を行います。



〈スケジュール〉

DAY 1

- 13:00 津名港ターミナル集合
- 14:00 製塩業者へのインタビュー
- 16:00 合鴨農家へのインタビュー



合鴨農法

DAY 2

- 10:00 インタビューのまとめと準備
- 11:00 地元スーパーでの観察
- 15:00 ため池管理組合へのインタビュー
- 17:00 収穫体験
- 18:00 収穫BBQ



収穫体験

DAY 3

- 08:30 地元直売店へ移動
- 10:00 直売店マネージャーへのインタビュー
- 11:30 漁業観察(渦潮クルーズ)
- 13:00 道の駅直売所の観察
- 15:00 洲本ターミナル解散



直売店マネージャーへのインタビュー

淡路島における合鴨農法普及の可能性を調査

現地での活動を通じて自己成長を実感し、学ぶことの喜びを知った

参加プロジェクト:淡路島地域振興プロジェクト

日系アメリカ人として育った私は、自分の「母国」をもっと知りたいと思い、日本の大学に進学しました。淡路島プロジェクトに参加したのは、普段の生活では知ることができない日本の姿を学びたかったからです。

現地では、合鴨農法をテーマに調査を行いました。お米は淡路島の主要作物ですが、後継者不足、生産コストの高騰などにより、多くの農家が事業を続けることが困難な状況です。合鴨農法は環境に配慮しながら利益を拡大できる農法であるため、淡路島で普及できないかを検討しました。合鴨農家や田主[※]の方へのインタビューを通じて、合鴨農業普及の可能性は十分あるものの、技術面の支援だけでなく、農家同士のネットワーク構築も必要だということがみえてきました。

プロジェクトの成功に不可欠だったのは対話力です。物事をわかりやすく説明すること、相手の立場や気持ちを考えて質問することの大切さを学びました。またプロジェクトでは、視野の広がりや自己成長を実感する経験ができ、学ぶことの喜びを知ることができました。

プロジェクトで獲得したチームワーク力、対話力、創造力といったスキルをさらに磨き、将来は日本とアメリカの架け橋となるような仕事に就きたいと考えています。

※田主(たず)…農業用のため池を管理する組織



山本 紗蘭さん

政策科学部 政策科学科2回生
アメリカ ミシガン州 セーラム高校
(Plymouth Canton Community Schools)
出身

03 グローバルに学ぶ

学びの特色

国際的視野を獲得し、よりよい世界を創造するための解決策を探る

政策科学を学ぶうえで、異なる文化や価値観を理解し、国を超えた視点で問題をとらえる国際的視野は不可欠です。政策科学部では、国際的視野を獲得するためのカリキュラムを4年間の学びの中に組み込んでいます。

政策英語科目 (EPS: English for Policy Science)

政策科学部では「英語を学ぶ」のではなく、政策科学にかかわるトピックや研究方法を「英語で学ぶ」ための科目を展開しています。政策英語科目は使用言語やアクティビティの内容により、以下の3つのタイプに分かれます。

Type A

授業の使用言語がすべて英語

授業をすべて英語で行うので、留学を希望する学生にとっては、必要な力を養う機会となります。また一部の科目は英語基準の留学生と同じクラスで学ぶので、国際交流を実践する場になります。

Type B

英語文献・専門書の講読

入門レベルから高度に専門的なものまで、政策科学の学習に必要な基本概念、理論、争点を概説する英語文献を講読します。また、授業によってはアカデミックな英語のリスニングを行います。

Type C

PBL 型の英語学習

学習の成果物をが社会貢献に結びつくようなPBL型(問題解決型学習)の授業を行います。大学の広報動画に字幕をつけるなど、外国人にとって有用な情報を英語化するプロジェクトがあります。

Community and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻

政策科学部では、日本語を基本としたカリキュラムを行う「政策科学専攻」と、すべてのカリキュラムを英語で行う「Community and Regional Policy Studies (CRPS) 専攻」の2つの専攻があります。CRPS 専攻では、さまざまな国や地域の学生が集まり、それぞれの国や地域が抱える諸課題を共有しながら学びを深めていきます。

政策科学専攻の学生も一定の語学基準を満たせば、CRPS 専攻の科目を受講することができます。CRPS 専攻生と交流しながら学ぶ科目(「Cross Border Policy Issues」)もあります。

また、政策科学専攻の学生とCRPS 専攻の学生との交流イベントを実施しており、授業外においてもグローバル・ダイバーシティな環境を提供しています。



学部独自の留学制度

立命館大学では全学部の学生が参加できる留学プログラムを実施していますが、政策科学部では政策科学部生のみが参加できる学部独自の留学プログラムも実施しています。英語をはじめ、中国語、朝鮮語、イタリア語といった初修外国語の運用能力を伸ばす機会も提供しています。

交換留学 (半年または1年)

中国 …… 東北財経大学(中国語)

タイ …… マヒドン大学(英語)

韓国 …… 国民大学校(朝鮮語、英語)、韓国海洋大学校(朝鮮語)

イタリア …… ベルガモ大学(英語、イタリア語)

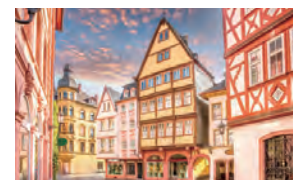
グローバル言語科目 (LGA: Languages for Global Actions)

英語だけでは現代の政策課題を考えることはできません。

複数の言語を用いてコミュニケーションが行えることは、異なる文化や価値観を理解するうえで非常に重要です。

政策科学部では、10の語種から1つ選んで学習するグローバル言語科目(LGA)を展開しています。

グローバル言語科目で得た言語運用能力を活かし、海外調査実習に取り組みます。



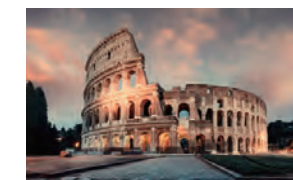
Deutsch
ドイツ語



Français
フランス語



Español
スペイン語



Italiano
イタリア語



Русский язык
ロシア語



10 語種から
1 語種を選択



中文
中国語



한국어
朝鮮語



ภาษาไทย
タイ語



Tiếng Việt
ベトナム語



Bahasa Indonesia
インドネシア語



5つのサークル活動参加で語学力アップ 失敗を恐れない積極的な挑戦によって目標が達成できた

参加プログラム: 交換留学(学部独自)

派遣大学: 韓国・国民大学校(2024年2月~2024年12月)

韓国語を身につけ、現地の文化に触れたいと思い留学を決意。当初は自己紹介ができる程度の語学力だったので、授業についていくのは大変でしたが、好きな文化を好きな言語で学ぶのはとても楽しく、苦にはありませんでした。

5つのサークルに所属して多くの韓国人と関わる環境に身を置き、アウトプットの機会を増やしたり、大学とは別に語学院にも通ったりした結果、目標だったTOPIK(韓国語能力試験)の最上級に合格でき、大学の授業でも最高評価を得ることができました。サークルへの参加で交友関係が広がり、みんなと過ごした合宿や学園祭は本当に楽しい思い出となりました。

以前は何事にも受け身でしたが、留学を経験したことで、失敗を恐れず積極的に挑戦しなければ、たとえチャンスがあっても成果は得られないということを実感しました。留学で身につけた語学力を活かし、学士論文では「韓国音楽業界の労働問題」について研究を進めたいと考えています。



ルームメイトと一緒にテーマパークへ



武中 月渚さん

政策科学部 政策科学科4回生
兵庫県・須磨学園高校出身

4年間の学び

1回生

春学期

秋学期

2回生

春学期

秋学期

3回生

春学期

秋学期

4回生

春学期

秋学期

学びの流れ

政策科学演習科目

PAGE 5・6

学術俯瞰科目

政策科学基礎科目

PAGE 10

政策科学科目(専門科目)

PAGE 9

「発見」

多角的な視点を養う

基礎演習

プロジェクト入門

「調査」

フィールドワークで現場を調べる

研究実践フォーラムⅠ

研究実践フォーラムⅡ

「探求」

ゼミナールで興味のあるテーマを探る

政策構想演習Ⅰ

政策構想演習Ⅱ

「発信」

学びの成果を社会へ発信する

政策構想演習Ⅲ

学士論文

グローバル言語科目

ドイツ語

フランス語

スペイン語

イタリア語

ロシア語

中国語

朝鮮語

タイ語

ベトナム語

インドネシア語

から1語種

公共政策系

民法Ⅰ(契約法)

民法Ⅱ(金融法)

国際機構論

政策評価

日本政治史

グローバル・ガバナンス

現代政治理論

行政学Ⅰ・Ⅱ

政治意識論

地域政策論

債権法

など

環境開発系

住宅政策論

都市計画

都市景観論

資源エネルギー論

国際環境政策

地域デザイン調査

コミュニティ防災論

都市・環境法

環境社会学

戦略的環境アセスメント

交通計画

など

社会マネジメント系

財政学

非営利組織論

開発経済論

国際経済学

マーケティング政策論

社会保障政策

地域経済論

社会福祉政策

消費者行動論

地方財政論

組織ネットワーク論

など

政策英語科目

PAGE 9

「公共政策系」「環境開発系」「社会マネジメント系」の3つの学系を自分の関心に応じて系統的・横断的に学びます

政策科学にかかわるトピックや研究方法を「英語で学ぶ」科目です

「公共政策系」「環境開発系」「社会マネジメント系」の3つの学系を自分の関心に応じて系統的・横断的に学びます

「公共政策系」「環境開発系」「社会マネジメント系」の3つの学系を自分の関心に応じて系統的・横断的に学びます

2024年度 学士論文テーマ例

- 公共政策系
- 同化政策と差別から捉えるアイヌの法的地位と先住権
 - 政党システムの比較政治
ーポスト55年体制期の日本と第二共和制期のイタリアの比較ー
 - 郊外住宅地における人口動態 ー滋賀県をケースとしてー
 - 「潜在化した過疎」の政治過程
 - 移民がアメリカ国民になるとき
ー南北戦争期から現代へ続く市民権獲得のプロセスー

- 環境開発系
- 大阪府内の居住誘導区域の現況の調査・分析と
居住誘導・適切な居住誘導区域の設定のための提言
 - 京都市地域景観づくり協議会におけるコミュニティ主体の景観形成について ー限界と課題、可能性ー
 - 環境市民会議による大学生の環境意識醸成効果の検証
ー立命館大学生版環境市民会議の開催を通じてー
 - 同調バイアスを活用した風水害時における避難行動促進戦略について
 - 震災経験から学ぶ行政の課題と可能性:日本における災害対応ナレッジ蓄積の現状と政策提言


- 社会マネジメント系
- 住民と介護事業所の関係性構築による
要介護高齢者の在宅生活継続の支援の可能性と課題
ー一軒の浦・さくらホームの実践を事例としてー
 - 大阪府における鳥獣被害対策実施隊の拡充
 - メガバンクの比較研究 ー企業文化に注目してー
 - 不妊治療費の負担軽減のあり方の研究
 - サンドウィッチ世代への両立支援に関する研究 ー自己犠牲ケアによる心理分析ー




進路・就職状況

カリキュラム体系のほとんどがキャリアデザインとも言える政策科学部。
政策科学部での4年間の学び・経験を活かし、多くの卒業生が社会で活躍しています。

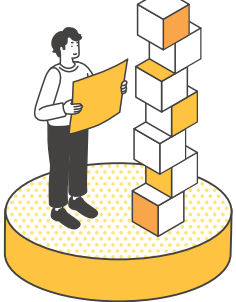
政策科学部で身につく力




論理的思考力



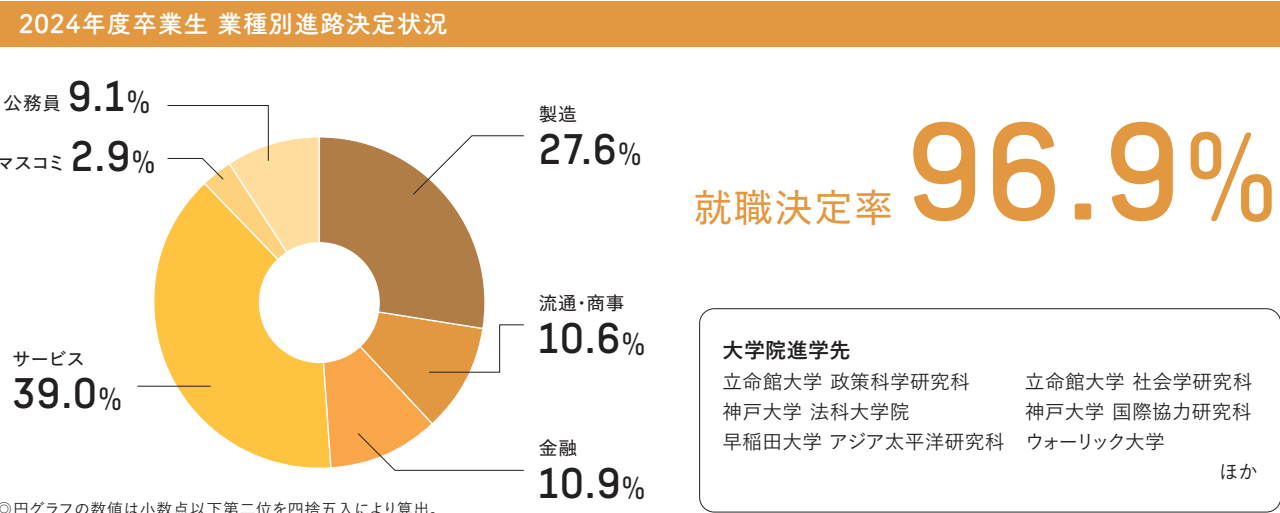
多角的視野



実践力



発信力



2024年度卒業生 進路・就職先一例		
国税専門官	キャノン(株)	日本電気(株)
国家公務員一般職(財務省)	(株)資生堂	日本郵便(株)
国家公務員一般職(独立行政法人 造幣局)	積水化学工業(株)	(株)ニトリ
国家公務員一般職(出入国在留管理庁)	積水ハウス(株)	日本生命保険相互会社
地方公務員	全日本空輸(株)	日本たばこ産業(株)
アクセンチュア(株)	双日(株)	PwCあらた有限責任監査法人
SMBC日興証券(株)	ダイキン工業(株)	(株)ファーストリテイリング
(株)NTTドコモ	大和証券グループ	(株)ペイカレント・コンサルティング
カゴメ(株)	大和ハウス工業(株)	(株)みずほフィナンシャルグループ
(株)カプコン	東京海上日動火災保険(株)	三菱電機(株)
関西電力(株)	有限責任監査法人トーマツ	(株)三菱UFJ銀行
(株)キーエンス	日本通運(株)	(株)リクルート

〈50音順〉

2024年度公務員決定者数

国家公務員

9名

- 国税専門官
- 国家公務員一般職 (財務省)
- 国家公務員一般職 (独立行政法人 造幣局)
- 国家公務員一般職 (出入国在留管理庁)

ほか

地方公務員

21名

- 大阪府
- 滋賀県
- 北海道
- 京都市
- 東京都特別区
- 京都府
- 奈良県
- 大阪市
- 堺市

ほか

行政政策プログラム(PAP:Public Administration Program)

政策科学部では、重要な政策過程の現場である公務員分野への進出を目指す学生に対し、「行政政策プログラム(PAP)」を提供しています。
本プログラムでは、4 回生時に公務員採用試験を受験できるように、公務員試験に必要な法律学・政治学・行政学の基礎と発展を3回生終了時まで習得します。



MESSAGE / 卒業生からのメッセージ

相互理解を重視した課題解決の経験を活かし
効果的なデジタルマーケティングの仕組みを構築したい



小川 侑佳子 さん

ソニーマーケティング株式会社
B2B プロダクツ&ソリューション本部 ソリューション企画部 企画推進課
(政策科学部 政策科学科 2016年卒業)

学生生活を通して抱いた「感動や楽しさを人々に届けたい」「人々の課題解決に携わりたい」という思いを実現できる環境だと感じ、ソニーマーケティング株式会社に入社しました。現在は経営方針の策定や、業務プロセスの見直しなど、企業や組織が抱える課題を解決するための施策を企画・実行しています。異なるビジネス領域の部署間に立つ業務が多い中、それぞれの部署が持つ価値観の違いを理解した上で、最善の施策を考えることができているのは、大学時代の経験があるからこそです。グループ学習や、大学間連携プログラムにおける被災地での交流を通じて、さまざまな人と向き合い、相互理解を重視しながら課題解決に向け取り組んだ経験が今に活かしています。今後は会社の文化やインフラも見直しながら、効果的なデジタルマーケティングの仕組みづくりに挑戦していきたいです。

2012年、政策科学部入学。オリター活動や災害復興支援室の大学間連携プログラムに参加し、複数大学で構成される学生有志団体では学生向けファッションショーの広報を担当。2016年、ソニービジネスソリューション株式会社(後にソニーマーケティング株式会社と経営統合)入社。新規事業の立ち上げやマーケティング業務を経験後、現部署へ。

ゼミナール活動での経験や学びを糧に
日本企業のさらなる成長に貢献する



今田 佳佑 さん

アクセンチュア株式会社 ビジネス コンサルティング本部
ストラテジーグループ
(政策科学部 政策科学科 2018年卒業)

日本を代表する企業の重要な経営課題の解決に携わりたいと考え、戦略コンサルタントを志望しました。現在は、企業の中長期計画の策定やM&A[※]戦略の立案、新規事業の検討を主なテーマとし、CXO(最高責任者)が抱える経営課題解決を支援しています。大学時代は、企業の経営戦略分析や財務分析、企業価値評価を行うゼミナールに所属しました。解くべき課題や論点が高度かつ複雑だったため、夜遅くまでメンバーと分析・討議することもありました。そのすべてが今の自分の糧になっています。仕事で求められる課題の本質を捉える力や課題解決力、何より責任を持ってやり遂げる「ラストマンシップ」は、学部での経験や学びによって培われたと感じています。今後は、企業の変革を牽引できるような業界の第一人者になることを目指しており、そのために日々勉強し続けていきたいと思っています。 ※企業の合併・買収

2014年4月、政策科学部入学。2018年4月、パナソニック株式会社入社。2022年1月、デロイトトーマツコンサルティング合同会社入社、Region Div. に配属。2024年1月、アクセンチュア株式会社入社、ビジネスコンサルティング本部ストラテジーグループに配属。現在は戦略コンサルタントとして、日本を代表する企業の経営課題解決に携わる。